R2年農事メモ（秋作業特集号）

令和２年８月
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

ケイ酸に重点を置いた土づくりをしましょう！

1　土づくりによる安定した米づくり

（１）土づくりの効果

①稲わらや籾がらのすき込み ⇨ 土中有機物が増え地力が向上します！

・分解を促進させるため、収穫後の気温が高いうちに速やかに耕起しましょう。

・稲わらや籾がらに含まれる窒素分やけい酸は焼却すると稲体に利用されにくくなるので、焼かずに全量すき込みましょう。

②土づくり肥料の施用 ⇨ 不足する養分を補給し、稲体強化や根の活力を向上します！

・本ＪＡ管内はケイ酸含量が少ない圃場が多く、灌がい水に含まれるケイ酸含量も少ないため、ケイ酸質資材の施用は必要不可欠です。

③作土深１５ｃｍ以上を確保 ⇨ 根域が拡がり天候の影響を受けにくく、生育が安定します！

・トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くしましょう。

・作土深が十分に確保できているか確認しながら、耕起を行いましょう。

（２）各土づくり資材の特徴

銘柄・規格・成分	特徴・使い方
松任PKプラス（P:K:Si※=3:5:27）	・リン酸、加里、ケイ酸を含み、根の発達、分げつの促進、登熟の向上に役立ちます。 ・溶出率の非常に高いケイ酸を含んでいるため、施用量は60kg/10a 程度と省力になります。
松任ケイサンプラス（Si＝30）	・ケイ酸を30%含んだ資材で、稲体を強くすることで、登熟の向上に役立ちます。 ・溶出率の非常に高いケイ酸を含んでいるため、施用量は60kg/10a 程度と省力になります。
ソイルパワー（N:P:K=2:2.3:3.2）	・牛糞、もみがらを主に使った堆肥で、圃場の地力増進に役立ちます。 ・土壌の保水力を高め、透水性、排水性を良くします。
NEW! ひゃくまん馬力（P:Si＝2:26）その他各種要素	・水田で利用されやすい高溶出のケイ酸を使用し、その他、ホウ素、マンガン、鉄、銅、亜鉛といった微量要素を含み、ひゃくまん穀など水田からの持ち出しの多い品種の作付け後に有効です。

※Si＝ケイ酸

ここにも注意を　《資材散布後の圃場管理》

堆肥や土づくり肥料の散布後は、速やかに耕起するとともに、ほ場内に水が溜まらないようにしましょう。

土づくりの効果は、数年継続することにより実感できます。毎年実施しましょう！

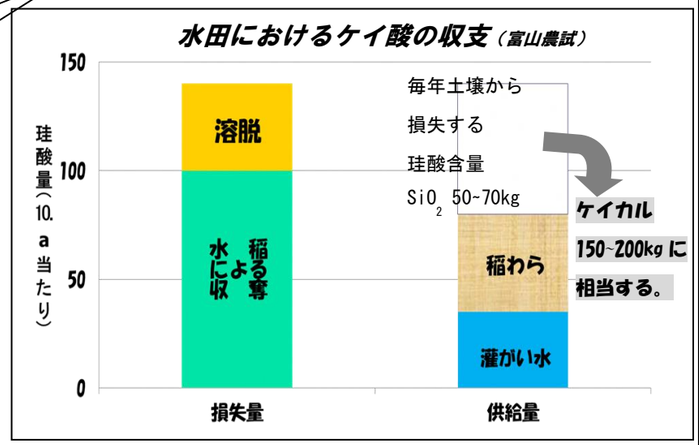
～管内の稲体にはケイ酸が不足しています～

●成熟期の稲体成分量（管内６地点平均）

部位	乾物重	成分含有率(%)					
	g/株	窒素	リン酸	加里	ケイ酸	石灰	苦土
茎葉	39.3	0.6	0.2	1.9	8.0	0.5	0.2
穂	43.0	0.9	0.3	0.4	3.5	0.1	0.2

※　収穫期の健全な水稲の茎葉のケイ酸含有率は11%以上

分析した全ての地点で健全なケイ酸含有率の基準値以下！！



●水稲作には毎年、約 140kg/10a のケイ酸が必要ですが、灌がい水と稲わら還元だけでは、補えません。

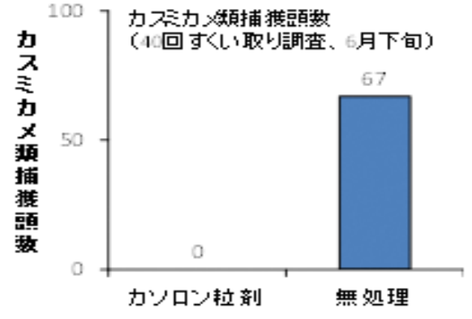
⇨ **ケイ酸の補給は必須です！！**

2　春季畦畔除草作業の軽減（カメムシ発生地の早期管理）

農閑期の「カソロン粒剤 6.7」散布で、忙しい春先の畦畔の除草作業を減らす事ができます。

薬剤名	使用時期	使用量 10a 当たり	本剤の使用回数	使用方法
カソロン粒剤 6.7	11 月下旬から年内積雪前	4～6kg	1 回	全面土壌散布

※そ菜（かぼちゃ、うり類等）、花き（菊等）ほ場・その栽培予定地に隣接する場所では使用しない。



※越冬直後の飛翔性カメムシ類の繁殖場所が無くなるので、その後の発生量を大幅に減らすことができます。

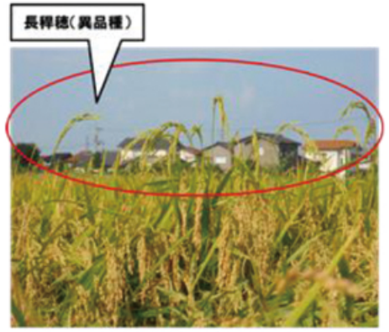
「まずはワンチェック・ワンアクションで農作業安全」 ２０２０全国農作業安全確認運動

※農作業事故の大半はトラクターの転落・転倒、回転部への巻き込まれです。トラクターを使用する秋作業に注意しましょう。

漏生イネ対策特集

漏生イネ対策（品種変更予定のほ場）

同一品種を作付するのが一番ですが、
どうしても、前作と異なる品種を
作付する場合は下記の対策１～３が
必要です。



【対策１】　前作水稲収穫後、ただちに秋耕（１０月中）し、こぼれた籾を土中に埋没させ、翌春の発芽率を低下させる（秋耕が遅れると、２番穂が登熟するとともに、翌春発芽率を低下させる効果が低いので注意する）

【対策２】　春の田植え前、２回代かきを実施

（代かき間隔を７日以上あけ、浅水代かきとする）

【対策３】　田植え直後（同時）に初期除草剤を散布（その後適期に一発除草剤散布）

「ソルネット１キロ粒剤」（成分：プレチラクロール）

［対策１が実施出来なかった場合］

ヒエ多発圃場にも有効

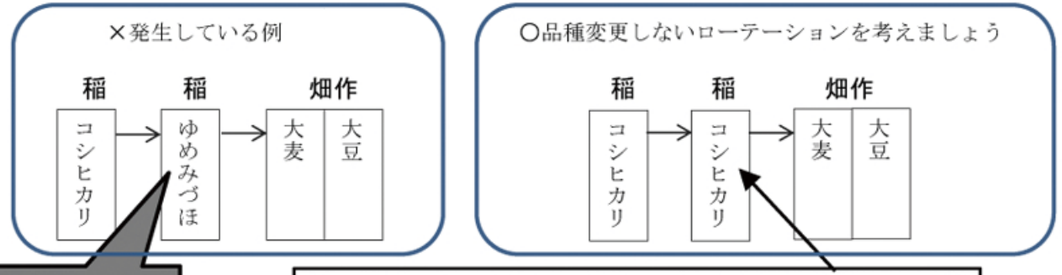
①　耕起前に「プリグロックスＬ液剤」1000ml/10a（希釈水量 100～150L）を全面土壌散布（籾、ヒエ等、イネ科種子に散布すると発芽生育能力を失う効果）

②　耕起前に石灰窒素 50kg/10a を散布。散布後は、ほ場をなるべく乾かし３週間程度は耕起しない。次年度の水稲施肥 N を 1kg/10a 程度減らす。

対策を組み合わせて、発生する密度低減を図る。
ただし、完全に発生を防除することは難しい。

［麦・大豆でローテーションする場合］

・基本的に、畑作前の２年間の水稲は同一品種を作付する。
・品種を切り替える時は、畑作→水稲のタイミングで実施する。



コンバイン後方からの籾排出を少なくするには？

漏生イネの発生源として、２番穂の結実以外に、刈取り時のロスも考えられます。
コンバインによる収穫では、脱穀と選別を圃場内で刈りながら行うため、どうしても選別しきれなかった一部の健全な籾が圃場内に排出されてしまいます。
漏生イネ発生源を減らすだけでなく、せっかく実った籾の収穫ロスを減らす観点でも、下記の点に注意して刈取り作業を実施するよう心がけてください。

最大の要因
コンバイン内部の脱穀・選別部が詰まり、選別能力を超えて刈取りを進めると、後方のワラ排出部から、健全な籾が排出されてしまう！

じゃあ、どうすれば・・・？

ポイント１．濡れた状態で刈らない

・朝露や雨など、濡れた状態で刈ると、内部の選別部（図１）が詰まりやすくなります。
・選別部が詰まった状態で刈取りを続けると、選別能力が低下し、ワラ等と一緒に健全籾が後ろから排出されやすくなります。
・「濡れモード」等が搭載されている機種では、上記のような条件のときには必ず選択するようにしてください。

図１

ポイント２．走行スピードを上げすぎない

・「走行スピードが速い＝選別部にも高負荷がかかる」ため、稲が濡れている等で選別能力が低くなりやすい条件のときには、スピードを落とすことが重要です。
・走行スピード（＝刈取り量）に対し選別能力が低下している状態がゲージ（図２）（メーター部に示される「シーブ」等）に表示されている場合には、スピードを落として、選別が追いつくのを待ってください。
・上記のような条件のとき、エンジン回転数が落ちるとともに、刈取り量に対し選別能力が追いついていないことを示す警告音が鳴動する機能があります。その場合は、エンジン回転数が正常域に戻るまで、足を止めて（走行停止して刈取りをストップ）ください。

図２

ポイント３．整備・清掃をきちんと実施する

・コンバインの中を開けて、「受網」や「揺動板」、「ストロラック」等、選別部の詰まりをこまめに清掃してください。
・ワラ排出部の受板（図３）を上下に調整できる機種では、取付位置を高い方に調整した方が健全籾の排出が少なくなります。
・掃除口のフタが閉まっているかの確認はもちろん、籾の流れる各部のパッキンが劣化していないか等もチェックしてください。

図３